

昭 和49年建築の玖波公民館。玄関には「全国一」の幕が掲げられている。ロビーに入ると、のぼりや大きな垂れ幕が目を引く。住民から提供してもらった昔の玖波の写真やレトロな看板の数々。「くばコレ」というファッションショーの出演者たちの写真も、所狭しとばかりに展示してある。写っている人は訪れるたびに自分の姿を見られるという。ここに居場所があることを感

地域が元気になっていく活動に 終わりはありません。

公民館の可能性への挑戦

「見知らぬガイドマップ」づくりなどを行ってきた。これらの取り組みの数々が、最優秀公民館として評価された。その後も継続して開催される「くばコレ」は、夏の風物詩といえるかもしれない。去年は延べ3000人を超す人が、モデルとしてランウェイをさっそうと歩いた。夏休みには「こども天国」、クリスマス前にした「KUBAデイスコ」と、大がかりなイベントが続く。

公民館にどのようなイメージを持っているだろうか。地域住民の学習機会のある場であり、生涯学習グループの活動の拠点ではあるが、若い世代にはなじみの薄い存在かもしれない。地域の公民館の特性が生かされていないのではないかと感じた一人の職員が、平成23年から始めた自主事業が月1回程度のペースで行う「学びのカフェ」だ。まずは親しみやすいおしゃれな趣味の講座から取りかかった。そして講座の名前のおり、くつろぎのカフェタイムを設けた。当初は4、5人しか参加者がいない状況が続いたが、回を重ねていくうち、その数を増し、お互いの仲間意識も生まれてきたという。そして3年目に入り「地域ジン」という冠をつけ、住民と共に地域の課題を考え解決を探る「地域ジン 学びのカフェ」へと進化を遂げることになる。

古き時代の面影を残す町並みの玖波地区。「地域ジン」たちのグループワークから出たアイデアで、玖波中学校の生徒も一緒になって、空き家を舞台にした「古民家まちカフェ」や、まちを再発見する「見知らぬガイドマップ」づくりなどを行ってきた。これらの取り組みの数々が、最優秀公民館として評価された。その後も継続して開催される「くばコレ」は、夏の風物詩といえるかもしれない。去年は延べ3000人を超す人が、モデルとしてランウェイをさっそうと歩いた。夏休みには「こども天国」、クリスマス前にした「KUBAデイスコ」と、大がかりなイベントが続く。

公

公民館の可能性を広げたい。そう語るのは、

(左)『だからこのまちが好き』は、『学びのカフェ』のテーマ曲のCD。講座ではこの歌が流れる。(右)玖波公民館のトレードマークのエンブレム。缶バッジもボランティアで作ってくれた。



ロビーに最優秀公民館表彰の賞状や盾が飾られている。これまでに訪れた約70の視察団。その記念写真も展示してある。

力も惜しまない。多くの自主事業を行ってきたが、それらは「不完全プロگرام」だと話す。「未完成だからこそ、地域の皆さんが入ることができる。最後は当日の参加者がつくり上げる」と河内さんは考えている。

バ ラエティに富んだ自主事業開催や垂れ幕など。その費用はどのくらいかという疑問もわく。公民館に潤沢な予算がある訳ではない。事業は市の各部署との連携で行ったり、著名な講師は近隣を訪れる機会に合わせてお願いしたりと工夫している。垂れ幕などは、公民館活動に賛同する

企業からの支援で製作した。河内さんの人的ネットワークも欠かせない。北朝鮮拉致問題の講演会で蓮池薫さんを招いたのも、培ってきた人脈の力が大きい。

「人と人をつなぐ場になりたい。地域が元気になっていく活動に終わりはないんです」と河内さんは力を込める。普通では連携しない人や組織を結びつける。そのための「学びのカフェ」であり「地域ジン」の存在なのだろう。「だからこのまちが好き」を合言葉に、玖波公民館の活動は進化していくようである。

「地域ジン」 進化するジモトパワー



DJがかかる70年代、80年代の洋楽のヒット曲が、色とりどりの照明の中で鳴り響く。12月21日、玖波公民館の一室が、デイスコに変身した。華やいだ衣装に身をまとい、ステップを踏む姿で部屋は熱気に包まれた。

玖波公民館は、平成27年3月、全国優良公民館表彰で、その活動が評価され最優秀館に選ばれた。あれから5年、公民館の常識にとらわれることなく、「KUBAデイスコ」「KUBAボジョレ」「くばコレ」などを催してきた。公民館に集う人々を「地域ジン」と呼び、歩みを止めることのない活動に焦点を当ててみた。【取材企画財政課】





(上)『くぼコレ』の特設ランウェイでモデルウォークするミス〇〇。(下)持ち寄られた230枚の布を縫い合わせて幅5mを超すタペストリーを作る『洋裁マダム』たち。公民館まつりでお披露目をする。左から鈴木佳子さん、藤井りささん、新田昌子さん、中村照子さん。

ず、気になって仕方なかったという。それが玖波公民館の活動内容のプレゼンテーションを聴く機会を得ることができ衝撃を受けた。

「第二の人生、探していたのはこれだ！心を揺さぶられた」と声もひとつ高くなる佐々木さん。しかし「表彰されたときに自分が関わらなかったのが悔しい」と唇をかむ。今は広島市に引っ越したが、『学びのカフェ』やイベントごとに駆けつける。

各自のポジションで支える

「何でも順調には来ていないです」と、一つ一つの事業の大変さを経験してきた横川敬子さん。「でも、結果的にすごいことができたという達成感があります。いろいろなことを乗り越えて今がある。喜びの大きさが勝っていると横川さんは話す。

裏方に徹する岡田千代子さんは、「経済的なやりくりが大変」と会計担当ならではの悩みをのぞかせる。一方で、こうした活動でみんなと関わること、家でもよく会話をするようになったとほえむ。

写真やビデオ撮影担当の木田泰秀さん。公民館の事業だけでなく、市内で行われる催しを何十年にもわたり撮り続けてきた。そこにはそれぞれのポジションで支える姿がある。伊藤さんは、それを「おもてなしの心を学ばせてもらっている」のだと口にする。

地域にはまだまだ眠っている人材がいる。人材を掘り起こし、それらをつないでいく拠点としての意識を持って集う『地域ジン』たちの姿を垣間見たようだ。



地域ジンスタッフの皆さん。左から木田さん、伊藤さん、岡田さん、横川さん、佐々木さん。

「おもてなし」の心で支える。地域ジンスタッフ

自然発生的でした。つくられたものじゃなく、気づくとそうなっていました」と口をそろえるのは、『地域ジンスタッフ』の皆さん。公民館の自主事業『学びのカフェ』の裏方を務めている。自前でそろえたロイヤルブルーのTシャツとパーカーが目印だ。『学びのカフェ』を受講する人を『地域ジン』と呼んでいるが、その企画や運営に携わるスタッフは、元々は講座を受講していた人たちだった。

『学びのカフェ』は、コーヒーを飲みながらのくつろいだ講座スタイル。当初は少人数だったため、職員が一人で準備をしていたが、受講者が増えてくると、それも手間取るようになってきた。その様子を見かね、受講者の中から手伝う人たちが現れた。お互い知らない者同士だったが、顔見知りとなりスタッフとして、『学びのカフェ』などの事業を支える存在となった。

公民館からまちへ

『学びのカフェ』は、おしゃべりな学びの空間を演出して受講者を増やしていったが、女性を中心だった。

「変わったのは、3年目に開いた団塊世代の男性をターゲットにした『地域デビュー講座』でした。もちろん、カフェタイムのある講座というのもよかったです。『鑑を脱いだ男たち』という講座で一気に男性が増えました。そのワークショップで、歴史ある玖波のまちだからいいものを発掘しよう。お宝探しをしようという話になったんです。そう伊藤信子さんは振り返る。これが『まちカフェ』やマップづくりへとつながった。

この講座がきっかけとなり、趣味的な色合いの講座から地域課題を取り上げる『地域ジン学びのカフェ』にバージョンアップ。人が支え合う姿を表す旧字体「學」に思いを込めた。それは公民館という空間だけでなく、まちへと目が向いていく第

制約があるからアイデアが生まれる。—KUBAディスコを振り返って—

UBAディスコ」を企画、運営したプロジェクトで、リーダーを務めた中野友博さん。玖波公民館との関わりは、青年会議所での空き家の利活用に取り組んだ数年前にさかのぼる。地域の人の声を聞こうと出向いたが、それまでは公民館に行くことは、ほとんどなかったらしい。そんなつながりから、新酒ワインを学ぶ、『解禁！KUBAポジョレ』や『くぼコレ』、『こども天国』などに関わってきた。

今回、ディスコをすることになったきっかけは、今年のお立ち台でジュリアナスタイルの扇の舞。



お立ち台でジュリアナスタイルの扇の舞。

ワイン講座はどうなのかという雑談の中から生まれたという。そろそろ違うことをしたいと思っていた公民館側が、ふと漏らした「ディスコ」という言葉。それが『サタデー・ナイト・フィーバー』や『ジュリアナ東京』を知らない中野さん世代を刺激した。偶然居合わせた仲間たちも巻き込まれ、プロジェクトを立ち上げることになった。

「僕たちはイベントをするノウハウは持っています。でも、僕たちだけでは、同年代の者が集まって踊っておしまいにしたくない。」

玖波には人が集まる土壌がある。それと融合することで、当日200人も参加が生まれたと中野さんは見ている。子どもたちのダンスパフォーマンスも取り入れること



(上)「世代間交流できたイベントでした」と中野さん。(下)アフロヘアのかつらの中野さん、お父さんと分らない娘さんは大泣き。

で、保護者世代も参加してくれる。食生活改善推進員の手作りのマフィンの販売、スパイスカレー講座や地ビール講座も同時開催し食事も味わえる内容にするなど、企画案は膨らんでいった。公民館という制約があるからこそアイデアが生まれる。

「逆転の発想がまちづくりの中で重要なことです。この経験を自分たちの活動にフィードバックしていきたい」。自由にできるより、知恵と工夫が求められることを学んだという。

「口頃は30歳代、40歳代の人は公民館に行く機会が少ないと思います。ディスコでは世代間交流ができたのではないのでしょうか。中野さんも汗を流した『地域ジン』の人だ。



(上)12月4日、よしもと広島県住みます芸人『藩飛礼(はんびれい)』の漫才にロビーは爆笑。(右)夏休みに開催した『こども天国』には、宮島水族館からペンギンもやって来た。



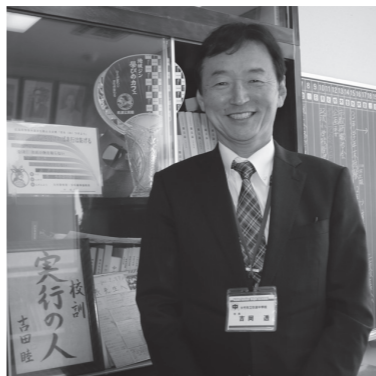
子どもたちも『地域ジン』。

玖波中学校との協働―

玖波公民館と学校との連携も密接だ。地域の学校に通う子どもたちとの関係は、なくてはならないと考え、中学校の扉を叩いた。しかし、行事や部活など決して子どもたちも時間的な余裕がある訳ではない。粘り強く声をかけ続けるうちに、やがて扉の鍵が開いたようだ。

公民館事業への参加はもちろんのこと、中学校の文化祭『玖波スクラムフェスティバル』へも出向いていく。今年度も3B体操やフラダンス、フォークダンスなどを披露した。

「フォークダンスと一緒に踊ったのが楽しかった」と感想を漏らすのは、前生徒会長



(上) 吉岡校長も『くぼコレ』に出演。(下)『スクラムフェスティバル』や『くぼコレ』の思い出を話す中村さん(左)と神田くん(右)。

で3年生の神田晃輝くん。『くぼコレ』にも2回出演した。お相撲さんの扮装をしたり、よさこいを踊ったりした思い出がある。最初は地域の大人たちとのコミュニケーションをとるのが苦手だったが、次第に打ち解けてきたと思いつつ。

2年生の現生徒会長の中村愛さんは、自分たちが作った玖波のまちのPR動画を地域の人が喜んでくれたことが、とてもうれしかったそう。

「自分たちが思っている以上に、地域の人たちが自分たちのことを思っていてくれて感謝しています」と話す。

玖波公民館では数多くの視察団を迎え入れる。その意見



福岡県嘉麻市からの視察。自分たちの思いを話す中学生たち。

交換の場にも中学生たちは参加し、自分たちの思いを述べたりもする。

吉岡透校長は、公民館との連携を生徒たちの成長の機会ととらえている。

「双方方向の連携が大事。学校は地域と共にあるのが使命だと感じている。総合的な学習では、地域の人の思いや良さを知り課題を探る。他地域と比較してみる。そして自分たちで何ができるか考えるということに柱にしています」と話す。

やがて中学校を巣立って行っても、公民館での数々の経験は、『地域ジン』の一員として、このまちのことを考える大きな財産となることだろう。

まちづくりのライバルであり同志。

玖波公民館に触発されて―

広島市安佐南区のNPO法人『沼田まちづくり振興会』で、公民館などを中心に活動している上垣内保之さん。仕事をリタイアして10年、1万2千世帯、30の町内会を擁する沼田地区で数多くの団体の役員を務めている。

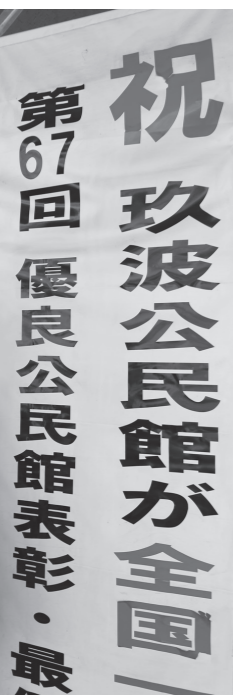
「公民館というのは、館長の思い一つで変わります。何年もかけて関係を築き、ようやく軌道に乗ると人事異動で、まったく関心のない人が来たりします」と上垣内さんは嘆く。

そんな思いを持っていた上垣内さんだったが、玖波公民

館が最優秀公民館に選ばれたことを知り、その活動に興味を覚え視察に訪れたのが出会いだと記憶をたどる。

「衝撃でした。センスがあり訴える力がある。何より情熱があった」と感銘を受けた。確かに事業や講座のネーミングもユニークだ。講座から生

まれた『KUBA男パン職人』、巨大パッチワークづくりを『洋裁マダム』と名づけるなど枚挙にいとまがない。上垣内さんは、人を変え団



「玖波公民館はライバルであり同志だと思っています」。上垣内さんの目は輝く。

「玖波公民館から持続可能なまちづくりのエキスを得たい、地域に伝えていくようにしています。大学のゼミの学生と一緒に地域のマップを作ったり、観光ルートを考えたり、玖波公民館に触発された活動は広がっていく。



沼田地区の伝説にある神武天皇に扮して『くぼコレ』に出た『沼田まちづくり振興会』

初めて玖波公民館に足を踏み入れた瞬間「何やってるんだ!」と圧倒されたのは、広島県生涯学習センター社会教育主事の石崎希さん。ロビーや通路に張り巡らされた写真。興味を引く仕掛けで、「まずは公民館をのぞいてもらわない」と評価する。

圧倒されます!



『虎の穴』で学んだチームワーク。 浜松市職員の間で 丁稚奉公―

平成30年の2月、静岡県浜松市から来た一人の職員が、玖波公民館の仕事を経験した。

体験したのは、野島克洋さん。浜松市にある入野協働センターで働いている。そこは公民館や類似施設の再編でできた、市内に35カ所ある施設の一つだ。

玖波公民館を知ったきっかけは、浜松市長から渡された雑誌の記事だった。『広島の小さな町のマジック、公民館日本一になれた訳』というの。百聞は一見にしかずと日帰りで訪れてみた。そこで垣間見た『地域ジン』たちと職員との光景などに衝撃を受け、その秘けつを肌で感じてみたいとの思いにかられたという。

浜松市には、最前線で働くコミュニティ職員を短期派遣する丁稚奉公のような制度、



玖波公民館での体験を仕事に生かしている野島さん(左)

「虎の穴事業」がある。これは、漫画のタイガーマスクが『虎の穴』でレスラーとして鍛えられたように、職員が地域支援のヒントや目指す方向性などを学び、一人前になるというものだ。制度を活用し、野島さんは再び訪れることになった。

野島さんが体験したのは、公民館まつりの準備と開催当日であわただしい5日間。『地域ジン』たちと共に汗を流した。「一番印象に残っているのは、『地域ジン』の皆さんの笑顔でした。笑顔が笑顔を呼んで一体感となり、そこで生まれたチームワークが公民館だけにとどまらず、地域の力、総合力につながっているように感じました」と野島さんは振り返る。実際に、地域の人から「玖波地区はいろんなものがかみ合っている」との声も聞いた。

玖波公民館での体験を終え、昨年は地域のシンボルである『佐鳴湖』という湖にまつわる講演会をポット競技の元オリンピック選手を招いて開催した。

「この催しは、玖波での経験が自分を後押ししてくれました。一人でやれることは限られませんが、人と人をつなぐたり、それがチームになりたりすることで大きなパワーが生まれます。玖波公民館は職員一人だけでなく、『地域ジン』の皆さん、地域住民の皆さんが、公民館の応援となり日本一になられたのだと思います。玖波での体験を終え2年が経ちますが、チーム玖波を見習って、チーム入野」という考え方で、

今まで以上に仕事をするようになりました。玖波公民館という『虎の穴』は、野島さんに大きな転換期をもたらしたようだ。

「公民館や協働センターの仕事は、それぞれの地域によって関わりはさまざま。マニュアルや正解はないと思います。第一条件として、地域に関わり、寄り添うことで、住民の皆さんからの信頼を得ることが必要不可欠だと思います。そこから地域の向上力につながるものだと考えています。野島さんはそう言葉を結び、玖波の皆さんに「私も『地域ジン』浜松支部として応援しています」とエールを送った。

玖波公民館は、貸し館状態からの脱却、暗いグサイ公民館からのイメージチェンジを図り、地域の人や団体を巻き込み、地道な努力を重ねてきた。毎月発行する『公民館だより』も、地区での回覧からコミュニティサロン玖波の広報紙とのコラボで、玖波地区に全戸配布をするようになった。頻りにSNSで発信したり、メディアに取り上げられることも増えたりするなど、情報発信に力を注ぐ。市内にはまちづくり、市民活動の拠点となる施設がいくつもある。各施設では、地域の特性を生かした取り組みがされているだろう。『地域ジン』というスタイル。玖波という限られた地域だからできたことかもしれない。玖波公民館の活動もその一つの例として紹介した。【企画財政課】



29日・1日
展示の部
 2月29日(土) 10時～17時
 3月1日(日) 10時～16時
 ○漢詩の実作 ○木彫り ○シヤドウボックス ○手編み
 ○筆ペン習字 ○料理
 巻ぎずし(サラダ巻ぎ)
 野菜販売
 防犯連合会 粗品進呈
 エスポワール ☎532271
 10時～16時
 喫茶の部 コーヒー・ケーキ
 手作り小物販売
29日
 JAグリーン大竹
 花苗の販売 10時～
 会館裏駐車場



コイちゃん

1日
 料理教室・ぜんざい販売
 11時～
 田淵佳恵さんの『笑いヨガ教室』
 10時～12時
 田中しげみさんの『血流upヨガ教室』
 12時30分～13時30分
 高橋航平さんの『楽しく健康体操』
 10時～11時 ▼申し込み
 大竹会館 ☎532226
 もぶり弁当販売

大竹会館 まつり

2月29日(土)・3月1日(日)

問い合わせ 大竹会館 ☎53-2226
 1年間生涯学習グループなどで学んだ成果を発表します。



玖波公民館 まつり

展示 2月15日(土)・16日(日)
 発表 2月23日(祝日)

共催：玖波まちづくり振興会/玖波中学校
 問い合わせ 玖波公民館 ☎57-7084



15日・16日
展示の部
 15日 10時～17時
 16日 10時～16時
 ○木彫り ○玖波短歌 ○川柳
 ○俳句 ○華道 ○手描友禅
 ○書道
 協力 ○玖波小学校 ○玖波中学校 ○知恩保育園(生徒や園児の作品展示) ○地元写真家長谷山勝英さん・小川剛さん・橋本勝英さん・瀬田英明さん・中川志郎さんのコーナー ○勝林華風さんの実演生け花
 アート展示
 オロシバ文恵さん(地元出身ジュエリー小物作家)
 ○佛像自作展

15日
 スパイスカレー講座(詳しくは28ページ)
 カレー販売
 11時30分～
 歴史講座「KUBA寺子屋」(詳しくは28ページ)
 巨大パッチワークタペストリー完成セレモニー&お披露目オリジナル絵馬(長野貢さん)
 13時～
 タピオカゼンざい(イノベーターズ育成スクールHug組)
 10時～15時
 アートDEコンサート
 会場内演奏会
 13時30分～15時
 出演 山本恭子さん(サクソ奏者)、渡部千秋さん(ピアノ)、佐々木優子さん

(理学療法士)、中村ひろ子さん(地元歌手)、山下玲子さんとハーモニカアンサンブルバイオレット、勝林華風さんとアイビーほか(曲にのせて花を生けこみ)
16日
 着物マルシェ
 10時～13時
 着物・手作り小物販売、抹茶・コーヒー・和菓子販売
 もりかねチームの手打ちそば実演試食(有料)
 11時30分～
 谷和神楽の舞
 展示終了後16時～
 子ども神楽
23日
 発表の部
 オープニング
 広島県警音楽隊の演奏
 11時30分～12時
 知恩保育園の園児の発表
 12時～12時10分
 生涯学習グループの発表
 12時10分～14時30分
 ○大正琴 ○詩吟A・B ○詩舞 ○県民踊A・B ○謡曲 ○民謡 ○歌ひろばたんぽぽ ○3B体操 ○フォークダンス ○日舞(藤美会) ○くばカラオケ同好会
 抽選会 14時40分～15時

参加者募集
総合市民会館 まつり
 問い合わせ
 総合市民会館まつり実行委員会
 (生涯学習課内 ☎535800)
囲碁大会
 と き 3月14日(土) 10時～16時
 ところ 総合市民会館
 参加料 1000円(昼食付き)
 ※当日集めます。
 申し込み 前日までに生涯学習課へ。
卓球交流会
 老若男女を問わず、卓球を通して交流しましょう。当日抽選でチーム分けをしてダブルスの交流試合をします。(景品あり)
 と き 3月15日(日) 9時～13時
 ※8時30分までにお越しください。
 ところ 総合体育館
 参加料 300円
 ※当日集めます。
 申し込み 2月28日(金)までに総合市民会館に備え付けの申込用紙に記入し、総合市民会館へ。

ところ	展 示	発 表
玖波公民館 ☎57-7084	2月15日(土)10時～17時 16日(日)10時～16時 (展示終了後神楽)	2月23日(祝日)10時～15時
栄公民館 ☎53-6688	3月7日(土)10時～17時 8日(日)10時～16時	3月22日(日)13時～16時
大竹会館 ☎53-2226	2月29日(土)10時～17時 3月1日(日)10時～16時	アゼリアホール改修工事のため中止
総合市民会館 ☎53-6677	3月14日(土)10時～17時 15日(日)9時30分～16時	3月15日(日)10時～16時

公民館・会館 まつり 日程表

※時間などは変更する場合があります。
 ※内容などは各館のチラシなどをご覧ください。

会員募集

生涯学習グループ ひとり一趣味一学習一スポーツ一ボランティア

生涯学習グループは、公民館や体育館で、スポーツや音楽、芸術などさまざまな分野で活動しています。あなたも仲間になって、学びの場に参加してみませんか。初心者の方も歓迎です。詳しくは、「生涯学習グループ紹介」(総合市民会館・)

問い合わせ
 生涯学習課 ☎536677
 きます。詳しくは各施設へ。
 大竹会館は、改築工事のため、9月から令和3年2月中旬まで休館する予定です。その期間の活動は、別の施設となります。

施設名	グループの活動内容
総合市民会館	木彫、洋画、日本画、水彩画、絵手紙、手描友禅、書道、英会話、ステンドグラス、陶芸、ガーデニング、県民踊、日本舞踊、民謡、カラオケ、詩吟、吟剣詩舞道、コーラス、大正琴、デジカメ、社交ダンス、卓球、シャドウボックス、和紙ちぎり絵、切り絵、太極拳、茶道、健康マージャン、ハーモニカ
総合体育館	ダンス、フラダンス、クラシックバレエ、3B体操、健康づくり体操、ズンパ、ヨガ
玖波公民館	詩舞、民謡、県民踊、詩吟、大正琴、俳句、木彫、手描友禅、フォークダンス、華道、書道、コーラス、短歌、川柳、謡曲、カラオケ、日本舞踊、ヨガ
栄公民館	水彩スケッチ、手描友禅、絵手紙、ペン習字、川柳、パソコン、デジカメ、写真、ハングル、遊書、中国語、大正琴、コーラス、詩吟、県民踊、日本舞踊、男性料理、認知症予防
栗谷公民館	生花、健康づくり
大竹会館	県民踊、日本舞踊、詩吟、コーラス、手編み、大正琴、筆ペン習字、シャドウボックス、漢詩の実作、3B体操
地域福祉会館 おがたピア	料理、大正琴、シャドウボックス、英会話、囲碁、健康づくり体操、3B体操、ヨガ、日本画